

近江 大津

近松が遊学したと伝えられるまら

(滋賀県大津市)



滋賀県



大津市街

「大津」は琵琶湖の大きな入江、船着き場を意味しています。その地名のとおり、大津は琵琶湖とともに歩み、さらに比良・比叡の山並みに囲まれた自然豊かな地です。

近松は近江の高観音近松寺たかかんのんじんしょうじに遊学したと伝えられています。京都に移り住み、一条家などに公家奉公した後、自分の将来を悩み近松寺で修行したということです。

近松寺は、浄土真宗中興の祖蓮如れんによが創建した近松坊の跡で、重要な旧跡である別院です。



近松寺

また関蟬丸神社せきのせみまるじんじゃの別当寺べつとうじ（神社に付属して建てられた寺）でもあります。関蟬丸神社は音楽芸道の祖神である蟬丸を祀っており、近松寺も芸能に深くかかわっていました。そのことが「近松」というペンネームの由来であるとも伝えられています。

また、日本の東と西を結ぶ交通の要地として古くから重視され、発展してきました。市の西部にある日本三関の一つ「逢坂関おうさかのせき」も交通の要衝として、街道一の賑いを見せていました。

大津のみやげ物の一つに大津絵があります。人気のあった大津絵は、近松門左衛門の浄瑠璃『けいせい反魂香』にも採り上げられました。大津絵の絵師又平や、大津絵から抜け出た奴や藤娘などが活躍します。